

混迷続く社会・経済情勢

健全で効率的な行財政運営が重要

第4次行政改革の取り組み姿勢ただす



15年度の施政方針を述べる吉野市長(後列左佐藤議長、右高梨局長)

今定例市議会の代表・総括質問では、行政改革への取り組みや、湘南市構想をめぐる研究状況などをたたき出したほか、「市民・大学交流の年」の事業展開、「ひらつか市民活動センター」の開設および「よみがえれ、ふるさと」のせせらぎ事業」等の新規施策に議論が集中しました。また、福祉の分野では介護保険事業計画の改

民間活力どう活用

議員 混迷を深める社会・経済状況のもとで、より一層の行政改革が求められていると感じている。現在、十四・十六年度の三か年を期間として第四次行政改革が進められているが、改革推進に向けての取り組み姿勢を確認したい。

現在、「時代の変化に対応した行政運営」、「健全で効率的な財政運営」、「市民の視点に立った行政改革」を基本方針として第四次行政改革に取り組んでいるが、NPM(ニュー・パブリック・マネジメント)等の新しい手法を積極的に導入し、これまでの行政改革と併せ、今以上に効率性を追及していく姿勢が重要であると考えている。

全な財政運営、市民サービスの向上を目指して取り組んでいく考えである。議員 第四次行政改革における民間活力の活用について、取り組み状況を確認したい。

助役 第四次行政改革の実施計画においては、民間活力の活用は重要な命題の一つと、①業務委託の推進、②多種多様な民間活力の活用、③公民館施設管理委託の推進の三点を掲げ、その推進に取り組んでいる。①では、破碎処理場運転管理業務、病院給食業務について、早期の委託実現を目指して積

極的に取り組んでいるところである。②では、これまでPFIの手法や事務手続きについて調査研究を進めてきており、十五年度には(仮称)保健センターの建設に当たって、PFIによる整備の検討も行う考えである。③では、十三年度末で管理委託未実施の公民館は五館であったが、十四年度で一館の委託を実施し、十五年度で二館の委託を予定している。残り二館についても順次、委託に向け協議を進めたいと考えている。

議員 行財政改革の新しい視点としてNPM(ニュー・パブリック・マネジメント)が提唱されているが、NPMに対する市長の基本的な認識を伺いたい。

市長 NPMは、民間における経営理念や手法、成功事例などを可能な限り公的の分野に導入し、効率化・活性化を図ることを目的としたものである。かつての右肩上がりの経

済成長が終えんし、本格的な少子高齢化社会に突入していく中で、今後最も有力な行政運営の手法とされているものと理解しており、本市においても十分な研究に取り組む必要があると考えている。議員 十五年度当初予算案において、NPMに基づく予算は計上されているのか。

市長 NPMは、一事業として予算計上されるものではないが、NPMの一つであるPFIの導入について、その研究に必要な経費を十五年度当初予算案に盛り込んでいく。もとより、NPMの理論は広範多岐にわたるものであり、その研究は始まったばかりである。まず身近にある可能なものから改善への取り組みを始めて、さまざまな分野ですでに実証されている成功例などを積極的に導入することが重要であると考えている。

議員 十五年度は、改訂基本計画第三次実施計画

「市民・大学交流の年」

産学連携を柱に積極的な事業展開へ

議員 市長は、十五年度を「市民・大学交流の年」と位置づけているが、その基本的な考え方を伺いたい。

企画部長 大学は、単に高等教育機関であるばかりでなく、研究開発の拠点として教職員や学生などの豊富な人材を擁して

おり、さまざまな活動が行われている所でもある。本市にとって、東海大学・神奈川大学と市民が交流することは、貴重な財産が生かされることであり、地域の発展につながるものと考えている。

議員 両大学とは、九年度に発足した「平塚市民・大学交流委員会」のもと、交流が続けられてきたが、今後の交流のあり方は、どのような方向性を考えているのか。

企画部長 過去五年間、幅広い交流の中で実績を積み重ねてきたが、市民と大学の交流の幅は、まだまだ広がっていく可能性を持っている。また、産学交流による産業の活性化に向けたフォーラム等を実施し、これらの事業を通じて大学と企業の共同研究や技術開発に結び付けていきたいと考えている。

議員 交流事業は、どのように展開していく考えなのか。

企画部長 産学連携を柱として、両大学が保有する研究施設や先端技術など、豊富な研究資産を生かした企業との交流を深める事業等を展開してい

たい。

議員 湘南市研究会では、今後どのようなスケジュールで研究を進めようと考えているのか。

「湘南市」

研究の情報提供 市民理解に向けさらに努力を

市民意識調査 実施の考え

今後のスケジュール

代表質問

本会議で質問を行った議員

《総括質問》

○プログレス平塚議員団 山原栄一・府川正明

○公明党 高梨孝治・前田 晃

○くすの木 金子修一

○新政クラブ 出村 光

○日本共産党平塚市議会議員団 小泉由紀雄

○市政クラブ 後藤輝彦

○このほか、ひらつか市民の党、神奈川ネットワーク運動、市民派の会、政研フォーラムの議員も質問を行いました。

議員 十四年一月八日に三市三町の首長による湘南市研究会を発足させてから、現在まで一年余が経過した。この間、研究会の活動内容等の情報提供や、合併に対する市民の考えなどの把握は、どのように行われてきたのか聞きたい。

市長 この一年間、研究会では、湘南市の将来都市像の研究と、実務レベルでの三市三町の事務事業の洗い出しを行ってきた。この間にフォーラムの開催やホームページの開設、パンフレット、か

性を持っており、市民や市民団体、企業等が大学ともっと密接に交流できるように展開していく考えなのか。

議員 交流事業は、どのように展開していく考えなのか。

市長 本年五月には、十四年度の研究成果を討議

わら版、研究会ニュースなどにより情報提供に努め、また多くの市民から意見をいただき、市民の考えの把握に努めてきた。これまでに、研究会フォーラムへの参加者が一八六〇人、職員を市民団体等へ派遣しての説明会が

市民 研究段階に応じた情報提供として、十五年度は、湘南市構想のビデオ作成やフォーラムの開催を予定している。また、みんなのまち「情報宅配便」の制度を活用し、地域・団体へ説明職員を派遣するほか、地域ごとの説明会の開催なども検討している。

議員 湘南市研究会では、今後どのようなスケジュールで研究を進めようと考えているのか。

市長 本年五月には、十四年度の研究成果を討議

中での市民や各種団体が合併の検討を行い、議論の熟度の深まった状況が一つのめどになると考えている。市民意識調査の時期や方法は、今後の研究会の課題としていきたい。